

## 寅さんシリーズ、映破！

「男はつらいよ」シリーズ48巻を読破じゃあなく、映破。

数本観た時点で、このシリーズは、全ての人がもつ悲しさ、哀れさを描いていることに気づきました。

そのためにその後、観続けることに正直、辛さとかなりのエネルギーが必要でしたが、逆に目を反らすことなく、観なくてはとの思いもあり、一ヶ月で映破しました。

くしくも第47巻で満男(甥)君が江戸川の土手を駆け下りながら、「近頃、叔父さん(寅さん)に似てきたと云われます。いう人は悪口のもりですが、僕にはそう聞こえない。叔父さんは他人の悲しさや寂しさがよく理解できる人間なのだ。その点において僕は叔父さんを認めているからです。」と呟いていました。

このシリーズの登場人物は、みんな優しい。

「人」を「憂う」ことが「優しさ」と以前ある人から教えられましたが、「憂う」とは、人の悲しさや寂しさを理解することでないか、と見終わって気づきました。

「映画鑑賞は人それぞれ。理屈はいらない！」。

おっしゃる通り。

でも短期間に連続で観てこそ見えてくることも...

実は私の「生まれ育ち」は、寅さんの口上に出てくる国の始まりは「淡路島」。それも、寅さんの映画を、寅さん同様、郷愁を感じつつ観ていたのかも。

(2001年12月24日記)